



＜発売当時のミゼットハウス＞

大和ハウス工業

ミゼットハウス

—プレハブ住宅ここに始まる—

旧羽室家住宅の敷地内に建つ小さなプレハブ小屋。これは羽室家住宅を引き継いだ四角家が、昭和 36 年(1961 年)頃、当時中学生だった健一氏のために建てられたものです。

発売 50 周年にもあたる平成 21 年(2009 年)11 月、大和ハウス工業(株)の全面的なご協力により、できるだけもとの材料を使いながら、同じ場所に忠実に修復・再現されました。

解説

ミゼットハウスが開発された昭和 34 年頃、戦後のベビーブーム世代の子どもたちで小学校はあふれかえり、教室が不足していました。大和ハウス工業(株)の創業者である石橋信夫氏は、神戸市教育委員会からの相談にもとづき、各学年の人数に合わせて仮設教室をつくり、中学校に建物ごと進学させる「移動教室」を提案し、開発しました。

同じころ石橋氏は、「自分の部屋がほしいなあ」という子どもの切実な声を聞きます。家にも家庭にも居場所のない子どもたちの存在に気づいた氏は、教室だけでなく、家庭にも「子ども用の独立した勉強部屋を」と思いついたといいます。氏は、当時会社の研究開発部門の研究室を一人でまかされていた吉村義治氏に、その開発を命じました。

吉村氏に与えられた開発の条件は、1. 坪当たり単価が木造と同じ 4 万円以下、2. 面積 3 坪 (10 m^2) 以下、3. 3 時間以内で建ちあがること。販売価格を抑えるとともに、 10 m^2 以下なら手間のかかる建築確認申請が不要になることがあります。しかも 3 時間以内で建つと、1 日に 2~3 棟を建てることができるというメリットがあったのです。

軽量鉄骨を用い、屋根と壁に断熱材を入れ、住み心地をよくしたミゼットハウスは、昭和 34 年(1959 年)10 月に発売。商品名は、小さいながら売れ行き好調の軽三輪トラック“ミゼット”にちなんで名付けられました。価格は、6 畳が 11 万 8000 円、4.5 畳が 10 万 8000 円。「3 時間で建つ 11 万円の家」は予想以上のヒットとなりました。

全国 27 のデパートに展示即売したこと、建築が従来のような「請負」でなく、デパートで売る「商品」となったことも話題になったといいます。「建築の工業化」を創業時からの理念とする大和のミゼットハウスは、工場で生産した部材を現場に運んで組み立てるという、まさにプレハブ住宅の原点とも言える建物でした。